

11月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

令和4年11月のD I値は8指標中、「収益状況」「設備操業度」の2指標が上昇し、「景況」「売上高」「資金繰り」「雇用人員」の4指標が下落、「販売価格」「取引条件」の2指標が横ばいとなった。

2. 県内中小企業の景況の現状

全国旅行支援により、ホテルメンテナンス業はコロナ禍前までに回復し、旅行業においても個人・団体共に動きが活発であったようだ。また、年末が近づいて来たこともあり好調な業種もあり、印刷業ではチラシ関係の動きが回復したようだ。しかし、コロナ前にはほど遠く、仕入価格の上昇やペーパーレス化の影響により厳しい状況は続いており、相次ぐ値上げ等にも多くの事業者が苦慮している。運送業においても燃料油の単価の値上がりが予想され、繁忙期に利益確保が難しい状況にある。

現在、人員確保も課題として残る中、徳島県も新型コロナウイルス感染症第8波に突入し、事業者は更なる苦境に立たされている。インフルエンザとの同時流行も懸念されるため、感染症対策を講じつつ事業に取り組む必要がある。

厳しい状況は続いているが、徳島県の景況は基調として持ち直している。今後、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響、中国における感染動向に注意が必要だが、各種政策の効果により景況が持ち直していくことが期待される。

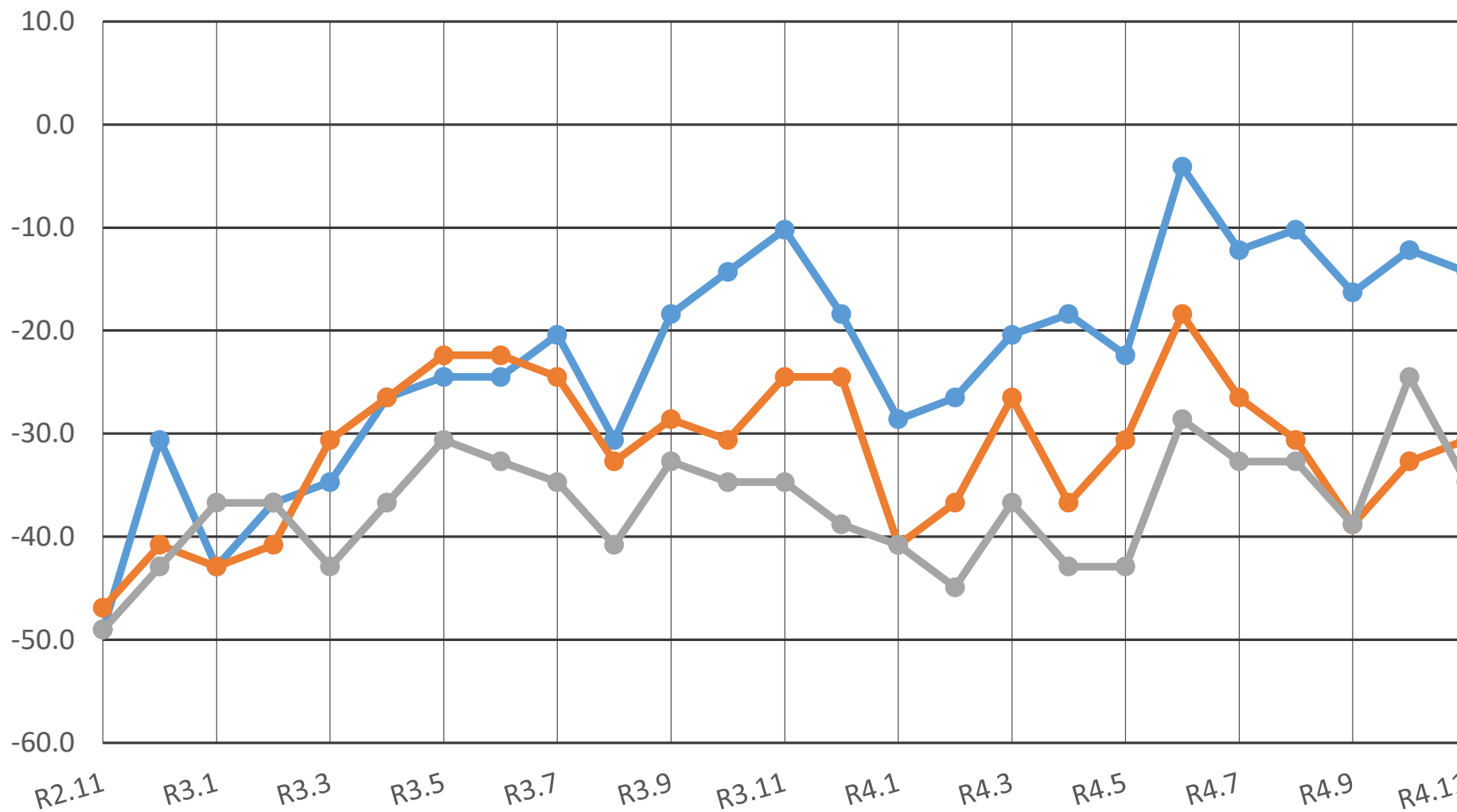
最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

	R3 11月	12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比 増減
景況	-34.7	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	-28.6	-32.7	-32.7	-38.8	-24.5	-34.7	-10.2
売上高	-10.2	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.1	-12.2	-10.2	-16.3	-12.2	-14.3	-2.1
収益状況	-24.5	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	-18.4	-26.5	-30.6	-38.8	-32.7	-30.6	2.1
販売価格	14.3	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	18.4	32.7	22.4	30.6	24.5	24.5	0.0
取引条件	-8.2	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-12.2	-10.2	-16.3	-18.4	-16.3	-16.3	0.0
資金繰り	-16.3	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	-6.1	-12.2	-16.3	-22.4	-10.2	-14.3	-4.1
設備操業度	2.0	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	-6.1	2.1
雇用人員	-10.2	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-10.2	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	-2.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比で味噌の生産量は100.7%、出荷量は99.5%であった。前月比で味噌の生産量は112.8%、出荷量は102.2%であった。計数的には大きな変化は無く、年末にかけてコロナの感染者数が増加しない限り安定して推移すると思われる。ただし物価上昇が進んでおり、今後の消費の動向が懸念される。
2. 漬 物・漬物製造業者では年末に向けての受注が好調な傾向がみられる。技能実習生の入国もあり外国人従業員数は回復しつつある。しかしながら日本人従業員は募集しても集まらない状況に変わらない。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・アパレル業界は2020年から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、その後は原油高騰や円安によるコスト高など今までにない苦境に立たされています。また、人員不足の問題も我々だけでは改善出来ず急務となっています。
4. 縫 製・労働力はほぼ確保完了。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進める途上であり、本年度の設備は予定通り年末までに終了する運びであるものの、一部設置条件が厳しい機械類については、来年当初に繰り延べとなる。生産面は予定通りの備蓄生産が進行中。値上げは生産関係の原材料費他はほぼ全取引において値上げとなり、エネルギー費も顕著である。値上げは3次・4次と続き、天井が見えない状況である。為替による生産の影響も大きい。

<木材・木製品>

5. 製 材・人件費、電気代、資材、運賃の値上がりで加エコストが上昇し住宅価格が高騰している。住宅着工数は減少傾向で、建築分野での木材需要も低迷している状況である。
6. 製 材・一進一退の状況で年明け不透明である。
7. 木 材・外材および外国産集成材については、御多分に漏れず円安が影響して価格的には高止まり傾向が強いのは今まで通りですが、国産材の製材品についても素材の生産量が頭打ちで、製材される製品の生産量が必要量に達していないように思われます。

<印 刷>

8. 印 刷・年末を控えているとはいえ景気上向きの気配は感じられない。引き続き11月も売上高が減少する厳しい月となった。ブラックフライデー等の影響でチラシ関係は少し回復した模様だが、依然用紙値上げの影響で商業用用紙は前年比1割減。さらにペーパーレス化の波は着実に印刷需要を減少させている。年末の12月は「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントが盛りだくさんある。それぞれを少しずつでも売上に積み重ね年末需要の拡大に繋げて印刷市場をもっと刺激していかなければならない。
9. 印 刷・11月はコロナの感染者は増加気味だったが、仕事の動きは少し出てきた月となった。お客様からの引き合いも少しずつ増えてきたが、コロナ前と比べるとほど遠い状況である。年明けからは用紙の3回目の値上げ要請もあるという事で、なかなか明るい見通しが立たない状況の中、早く組合各企業が数年先を見据えて新しい事に挑戦していかないと生き残ることができないように感じる。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・11月の出荷量は昨年同月比17%の減少であった。昨年と比べて官工事が減少しているようだが、その影響なのか徐々に出荷量が減りつつある。今年度の発注状況を見てみると、この先も出荷量が落ちることが予想される。
11. 生 コ ン・11月の出荷数量は、対前年同月比4%減であった。要因としては官工事での新規発注工事の減による。7月より生コン価格引き上げを行ったが、値上がり分に対する対応が追いつかず収支は依然として厳しい。又更なる原材料の価格引き上げの対応を迫られ生コン業界の経営環境が厳しい状況に変わりない。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感は、大きな変化もなく横ばいで推移しているものの、諸物価の高騰をはじめ原材料などを含めた資材調達の遅れなどが回復しておらず、収益は低調のままとなっている。原材料、エネルギー価格の高騰や円安等による物価上昇及び新型コロナウイルスの感染再拡大などの影響による景気動向を今後も注視したい。
13. ス テ ン レ ス・企業活動は国内外ともに活発化してきているが、物価の上昇や納品の長納期化についてはまだまだ改善の兆しは無く、先行きの不透明な状態は継続している。また、国内の新型コロナウイルス感染数は拡大傾向が収まらず既に第8波に突入し、冬場に向けインフルエンザの同時感染等、感染症による企業活動への影響が懸念される。感染症対策や物価上昇、供給面での制限等様々な影響が懸念される中、対策を講じつつ企業活動の維持に取り組んで行く必要がある。

<一般機器>

14. 機械金属・新型コロナウイルス感染症の第8波への兆しが警戒される中、輸送、エネルギー、原材料コストの高騰等、諸々の不安定要因により、営業活動の停滞、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念される。一部に景況感の持ち直しの動きも見られるが、引き続き、予断を許さない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、円安による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧 卸・動力費(電気代)が重くのしかかってきている。

<小売業>

16. ショッピングセンター・11月の前年対比は売上96.1%、客数94.1%です。業種別にはサービス116.2%、身の回り品98.1%、食品96.4%、衣料品94.4%、住居関連91.2%の順です。当社におけるサービスはクリーニングと美容室で、生活衛生商品券の利用期間が11/30までだったので使っていない券が一気に使用されたのではないのでしょうか。8月より3か月連続で100%を超えていた婦人服が今月は低迷しました。防寒商品が行き届いたのででしょうか。今月より鍋係数が上昇する季節になりますので食品の売上増加に期待しています。
17. 電気機器・省エネ家電拡売キャンペーン（カーボンニュートラル宣言キャンペーン）を実施して、省エネ商品の置換え需要を喚起しているが、社会全体の値上げラッシュで、景況の悪化が予想される。
18. 量小売業・天候も安定し、一般住宅用が動いた。リフォーム関連も年内仕事が入ってきている。ホテル関連も数件メンテナンスを始めた。この一年のうちではバランスの取れた仕事量になった。12月も期待したい。

<商店街>

19. 鳴門市・値上げばかりで仕入れ価格上乘せなど大変です。どの業界も同じですね。店はそれなりに忙しくさせていただいております。
20. 徳島市・商店街内の店舗が1店舗廃業となったが、別の新店舗が開店した。
21. 徳島市・三越が少しずつ動き出したのと、少し寒くなりコートやセーターなどが動き出した。（お歳暮を注文に来る客などが増えた影響もあり。）

<サービス業>

22. 広告業・仕入単価や電気代などが上昇しているため、見積金額に転嫁しているが、先方も値が厳しいようで、値切られてしまい、結果的には販売価格に転嫁できていない状況。仕入や経費ばかりが上昇している。
23. 自動車整備業・11月の登録状況は、軽自動車の新車登録を除いてはすべて前年度を下回り、トータルでは3.1%減という結果。中でも登録車の中古車登録は対前年度比19.7%減、次いで軽自動車の中古車登録が15.1%減となった。全国的に見ても、中古車販売は前年同月実績を下回っているようで、18か月連続マイナス。軽自動車は回復手前で停滞しているようだ。
24. 土木建築業・前年同月と比べて、売上高は増加しているが、人件費の上昇、Cadソフトの更新、PCの追加等の設備投資、1室借増したことによる事務所経費の増等で収益状況が悪化。
25. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境下にあります。最低賃金の引き上げによる経営の圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。通常営業関係のホテル業に関しては、全国の宿泊・旅行割引キャンペーンの効果もあり、各イベント会場、会議等の稼働も高く、それらに伴い客室稼働率がコロナ禍前まで回復しています。これからさらに伸びるものと思われれます。その関係でホテルメンテナンス業に関しての売上げはほぼコロナ禍前の水準に回復しています。しかし、コロナ関連受入れのホテルにおいては、陽性者の高止まりが続いているため、受入期間の延長が続き、通常営業の再開は未定のままで、ビルメンテナンス業への影響は続いています。また、医療施設や高齢者利用所施設においては、コロナ陽性者の高止まりが続いている中、感染防止対策等引き続き管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところです。これらの課題への対応に加えて、コロナ後に備えて従業員の補填活動も大きな経営課題として取り組んでいるところです。
26. 旅行業・全国旅行支援のおかげで旅行に行こうという動きが出てきた。11月は個人、団体ともに活発に増加になった。一方では仕入価格の上昇により、収益は上がらない会員もある。今は支援があるが今後どうなるか不安だという会員もある。

<建設業>

27. 鉄骨・鉄筋工事業・県内物件の見積は、相変わらず少ない状況が続いている。50~200トン程度の仕事が少なく、仕事の手持ち量にバラつきがあるようです。融資材等の材料価格の値上げはまだまだ続きそうなので、納期と受注価格に注意が必要。プレス管コラムがだいぶ納期が縮まったみたいです。
28. 建設業・11月は、国、独立行政法人等の発注工事は増加したが、県発注工事が大幅に減少した。全体の単月では前年比約7%増となっている。特に請負額で、徳島県では対前年比-19.9%と落ち込みが顕著である。
29. 板金工事業・材料費の値上がりも一旦落ち着き、上棟数も例年並みに増え、景気上向きの感じがする。
30. 電気工事業・新設住宅口数は232件で、昨年同月比108.9%となった。

<運輸業>

31. 貨物運送業・新型コロナの感染が増加傾向にあり、取扱業種にもよるが物量は前月比横ばいか、減少傾向で推移。燃料油の単価は、前月平均で約1円強の値下がりとなったが、12月はOPECプラスが引続いて減産維持の方針で値上がりが予想され、繁忙期に利益確保が厳しい状況になりそうである。
32. 貨物運送業・前月に続き一部を除き荷は動いているようだが、「各経費増のため収益は上がらない」との声が多い。働き方改革関連法関係で2023年4月には月60時間を超える時間外労働の割増賃金率が50%に、2024年4月には時間外労働の上限規制、年間960時間の上限がはじまり、法令遵守のためにも、運送事業者は大幅な運行の見直しをせまられることとなります。荷主企業の協力なしでは解決できない問題も多いため、今、粘り強く運賃交渉を行う必要があります。